

フリーランスの IT 技術者として働いて

不一致、不条理、真逆の同居。
矛盾だらけの業界で。

フリーランスの IT 技術者として働いて

不一致、不条理、真逆の同居。矛盾だらけの業界で。

本日お話しする内容について

本日お話しするテーマについて。

- フリーランスのシステムエンジニアがどのようにソフトウェア生産のプロジェクトに組み込まれているのか
- 働き方の実態は雇用と同じなのに、雇用とどのように分けられて「いるのか」または「いないのか」
- それが理由でどのような問題が発生しているのか

自己紹介

河野幸恵(こうのゆきえ)

1967(昭和42)年2月生まれ(満51歳)

1989(平成1)年3月 都内の4年制大学(法学部)を卒業

独立系ソフトハウス(SES・後述)に就職する→1年半で退職。

一般人材派遣会社にプログラマー(後述)で登録し派遣社員に。

常駐した企業の「一次請」との直接契約に切り替えフリーランスに。

途中、約3年の勤め人の期間を除きフリーランス。

今いる職場は来年5月で10年目。

業界の矛盾、自分の身に起きた不条理をこちらで日々憂っています。

Twitter: こげもと (ID: @yaimania)

IT 業界の業界構造

IT 業界をよくご存知ない方は「エンジニア」や「技術者」と一括りか、それとは逆にさまざまな業種、職種があるイメージを持たれると思いますが、エンジニアにはどこで働いているかによって大きく2種類の住み分けがあります。

一つは自社開発(自社サービスを持つ会社)のエンジニア、もう一つはSIerで働くエンジニアです。

受託開発の特殊性

システム開発を事業内容として謳っている SES 企業の多くは自社の社員や業務委託契約を結んだフリーランスのエンジニアを客先や元請のオフィスに常駐させています。

派遣のような働き方ですが、派遣ではありません。

多重請負について

多重請負は間に入って契約を仲介しているだけの企業がマージンを中間搾取し、実際に働くエンジニアが手にする報酬がごくわずかになってしまうこと、そして、一番の問題が「偽装請負」です。

IT 業界で多く見られる「多重下請け＋客先常駐」の組み合わせは、他社のオフィスで働き、かつ他社の人たちとチームを組んで仕事をするため、偽装請負の温床となりやすいことが特徴であり一番の大きな問題です。

偽装請負の問題点

偽装請負は、労務管理が曖昧になりがちです。

派遣契約でなければ、他社の人間から直接指示は受けられないはずですが、常駐先の元請企業や客先の社員も常駐している本人さえもが、仲間が派遣契約なのか、SES 契約（請負契約や準委任契約）なのか知らない、指示を受けても出しても良いのかどうか判断できないのです。そうして偽装請負の現場が完成します。

そして、私たちフリーランスのエンジニアは、その偽装請負の真ん中で、いらなくなったら即クビ、という憂き目に日々怯えながら働いている、というわけです。

「エンジニア」としての私の一日

参考までに、今の私の一日の仕事を紹介します。

- 9:30 出社と朝会出席①
- 10:00 朝会出席②
- 10:30 メールチェック
- 11:00 障害票の精査
- 12:00 昼食
- 13:00 障害票の精査

- 15:00 会議出席
- 19:00 メールチェック
- 19:30 割り込み作業依頼の発生
- 20:00 障害票の精査
- 22:30 職場を出る(帰宅)

私が私自身の働き方について疑問に思うこと

最後に、今いる職場で10年近く働いてきた中で疑問を持ったままだったことを列挙します。

- ① 契約書がない
- ② 作業報告はタイムシート
- ③ 消費税問題
- ④ 責任者不在

以上、本日の報告はここまでとなります。